

最高の挑戦、全員が主役



- 主催 LAKE BIWA TRIATHLON 実行委員会
- 共催 守山市、野洲市
- 後援 滋賀県、国土交通省近畿地方整備局琵琶湖河川事務所、守山商工会議所、守山市観光物産協会、野洲市商工会、野洲市観光物産協会、守山湖岸振興会、公益社団法人びわこビジターズビューロー、公益財団法人滋賀県交通安全協会、守山野洲交通安全協会、公益財団法人守山文化体育振興事業団、守山市スポーツ協会、滋賀県自転車軽自動車商業協同組合守山野洲支部、一般社団法人滋賀県自転車競技連盟、近江守山ライオンズクラブ、守山ロータリークラブ、淡海を守る釣り人の会
- 協賛 オン・ジャパン株式会社、株式会社カワシマサプライ（プロファイルデザイン）、株式会社 COMARS、サイクルヨーロッパジャパン株式会社、たねや・CLUB HARIE、ブライトリング・ジャパン株式会社、株式会社平和堂、琵琶湖マリオットホテル、マヴィックジャパン株式会社、Wahoo Fitness、株式会社東商会（Celvelo）、ヨネックス株式会社、ウイングレル株式会社（ROKA）、プリレストンサイクル株式会社
- サステナブルパートナー 佐川急便株式会社、日本貨物鉄道株式会社、株式会社ユーグレナ、株式会社セブン-イレブン・ジャパン、日本コカ・コーラ株式会社、コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社、丸紅ペーパーリサイクル株式会社、株式会社ヒエクレックス、トヨタモビリティ滋賀株式会社、びわこ成蹊スポーツ大学
- 協力 粉飴、Power Production(Glico)、野洲川下流土地改良区、西武造園グループ、シダックス大新東サービス株式会社、TAC・ナショナルメンテナンス共同事業、株式会社滋賀銀行
- メカニック協力 GIANT JAPAN、キヨシ商会
- 競技主管 一般社団法人滋賀県トライアスロン協会



LAKE BIWA TRIATHLON Sustainability Report

琵琶湖を駆け抜ける、喜び。



公式サイト



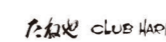
facebook



YouTube

10.1

2023
SUNDAY
6:30 START



LAKE BIWA TRIATHLON 2023

今年で第3回大会となる、滋賀県・琵琶湖を舞台とするトライアスロン大会「The 3rd Annual LAKE BIWA TRIATHLON 2023」は、国内外から個人・リレー合わせ763名のアスリートが集うトライアスロン大会です。「最高の挑戦、全員が主役」をコンセプトに、最高の挑戦の舞台を琵琶湖で創ります。大会コンセプトの1つに「サステナブル」を掲げ、参加者はもちろん、地元地域、事業者、自治体など多様な主体が「全員が主役」として共創し、トライアスロンというスポーツ、そして大会の開催を通じた持続可能社会への貢献を目指しています。

琵琶湖で世界中のアスリートが参加するトライアスロンレースを目指してスタートしたLAKE BIWA TRIATHLON。選手だけでなく、応援する人、大会を支える人など、レースに関わる全ての人「主役」となる大会を目指して、これからも成長していきます！

LAKE BIWA TRIATHLON 実行委員会
実行委員長 **田中 信行**
Nobuyuki "Joe" TANAKA

OFFICIAL MOVIE
大会公式映像



<https://bit.ly/47HBpGj>
大会ダイジェスト映像は
公式YouTubeチャンネルで！

RACE DATA レースデータ TRIATHLETES

エイジ (個人の部) 参加者数 **610** 名
エントリー 697 名

リレー 参加者数 **22** チーム
エントリー 23 チーム
*1チーム2名で1人2種目を担当したチームあり

VOLUNTEERS

大会 ボランティア **184** 名

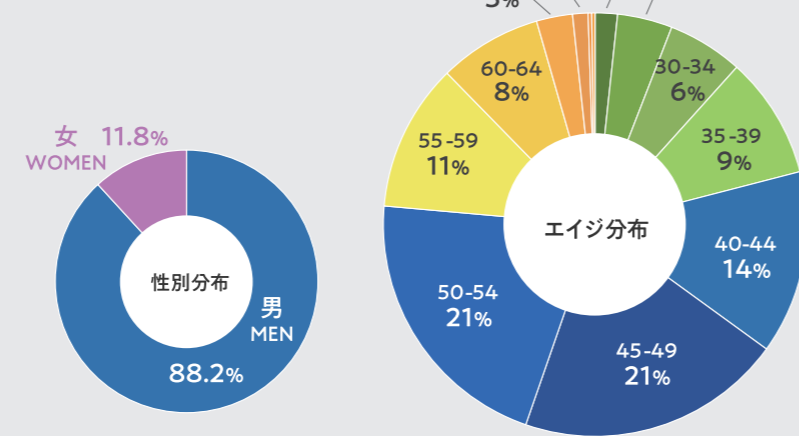
地元自治会 ボランティア **30** 名
びわこ成蹊スポーツ大学 学生ボランティア **17** 名
地元企業・一般受付 ボランティア **137** 名

TECHNICAL OFFICIALS

マーシャル (審判) **70** 名
日本トライアスロン連合(JTU)公認審判員

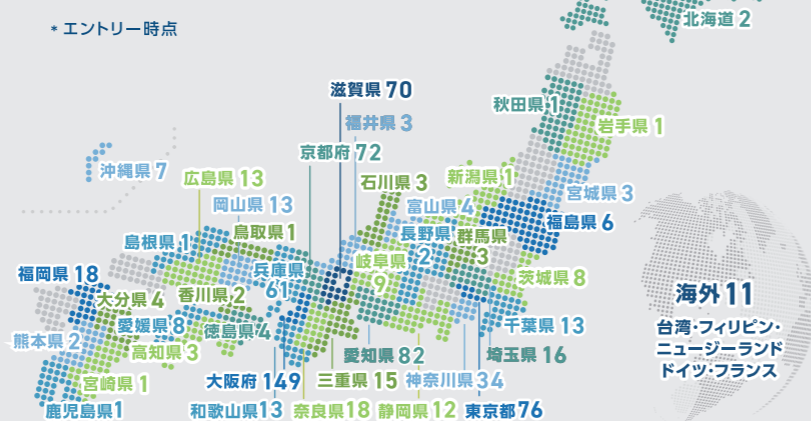
WHAT IS YOUR AGE?

参加トライアスリートたちのエイジ・性別
・エントリー時点



WHERE ARE YOU FROM?

参加トライアスリートたちの居住エリア
・エントリー時点



RACE COURSE

LAKE BIWA TRIATHLONは日本最大の湖・琵琶湖を舞台とするミドルディスタンスのトライアスロンです。淡水かつ穏やかな波の中での遠浅のスィムにはじまり、湖岸を駆け抜け「This is BIWAKO」と呼べるバイクコース、雄大な湖と比叡の頂を眺めながら走るラン。輝く湖面と雄大な緑の大地と山々を眺めながら、爽やかな風を感じ、泳ぎ、駆け、走り抜けるコースとなっています。



LAKE BIWA TRIATHLON サステナブルへの取り組み

Commitment to SUSTAINABILITY through the holding of the LAKE BIWA TRIATHLON

プロジェクトページ



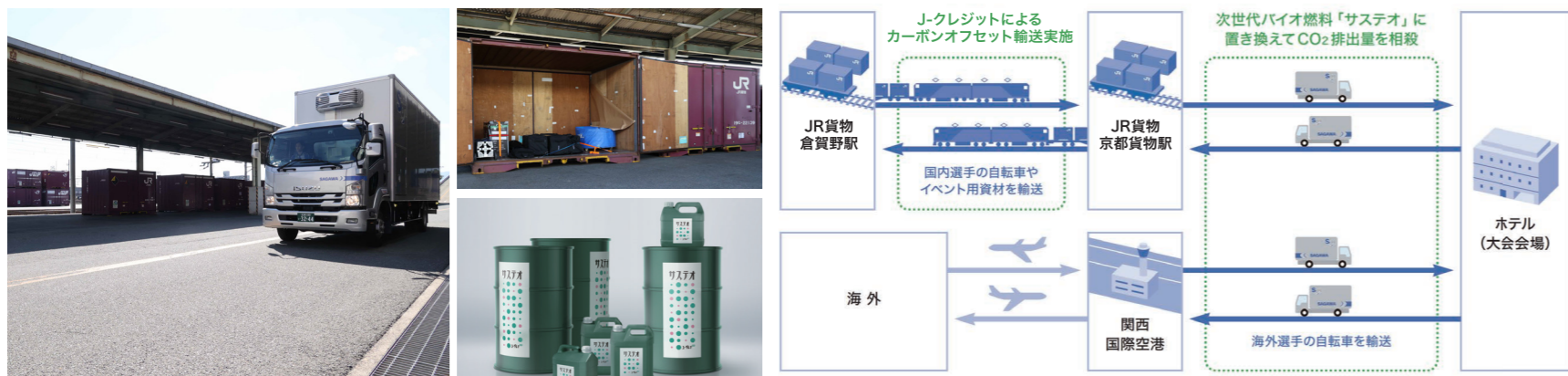
bit.ly/3bm0ldq

「LAKE BIWA TRIATHLON」では、大会コンセプトの1つに「サステナブル」を掲げ、参加者はもちろん、地元地域、事業者、自治体など多様な主体が「全員が主役」として共創し、トライアスロンというスポーツ、そして大会の開催を通じた持続可能な社会への貢献を目指しています。開催地である滋賀県守山市では、地方創生の柱として「起業家の集まるまち 守山」を掲げ、多様化する社会課題の解決のため、市内外のスタートアップをはじめとする民間企業との官民連携による民主導の地域活性化・持続可能な社会への貢献を目指しています。守山市との連携を図る中、本大会を通じて、2025年大阪・関西万博を見据え、官民連携による持続可能な地方創生の実現を目指した様々な事業にチャレンジしました。



LAKE BIWA TRIATHLONは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています

バイオ燃料トラック・貨物鉄道を活用した海外選手自転車・イベント関連用品の輸送



本大会に参加した海外選手(関西国際空港利用)の自転車を、関西国際空港～開催地守山まで佐川急便株式会社がトラックで輸送しました。輸送で発生したCO₂排出量については、株式会社ユーグレナの次世代バイオディーゼル燃料「サステオ」を活用することでカーボンインセッティングを実施し、サステナブルな配送を行いました。

また、本大会オフィシャルパートナー企業であるオン・ジャパン株式会社のイベント資機材や、自転車&トライアスロン好き芸人として数々のメディアに出演中で、本大会に出場される安田裕己選手(安田大サーカス 団長)の自転車を、CO₂の排出量が少ない日本貨物鉄道株式会社(JR貨物)の貨物鉄道を活用し輸送。さらにJ-クレジットによるカーボンオフセット輸送を実施。鉄道輸送区間以外の配送についてはバイオ燃料を活用したサステナブルな配送を実施しました。



安田裕己選手 (安田大サーカス 団長)

LAKE BIWA TRIATHLONに参加させていただきました。地域と共創するトライアスロン大会で、開催地の滋賀県守山市を中心に取り組みが凄かったです!! 僕自身も地方での自転車レースやトライアスロン大会によく参加しますが、その時に課題になる1つが自転車の輸送。今大会ではバイク含む荷物の輸送を、鉄道貨物・バイオ燃料を活用したトラックの使用でホテルまで届けていただき、復路も同じく、レースに参加すると同時にカーボンオフセットにする取り組みにも微力ながら参加させていただきました! レースに参加する事で、琵琶湖をはじめとする地球環境保全へ一人一人の意識が変わるキッカケが作れる、素晴らしい大会だと思いました!!

実施主体・協力会社

SAGAWA 佐川急便株式会社

J-グレナ 株式会社ユーグレナ

JR貨物 日本貨物鉄道株式会社

選手向け事前発送物に地元企業が排出したダンボールより再生したダンボールを使用・レースで使用した紙コップを循環リサイクル



競技ガイドや参加賞など、選手に向けた事前配送物の梱包に使用するダンボールを、再生ダンボールを使用して発送しました。大会公式スポンサーである株式会社平和堂の店舗から排出されたダンボール古紙を回収し、丸紅ペーパーリサイクル株式会社の循環型リサイクルシステムにより再生ダンボールとしてリサイクルして、選手のご自宅へ商品を配送する仕組みとなっています。また、レース中に選手への水分補給で提供した大量の紙コップをリサイクルする取り組みも実施しました。これまでは使用済み紙コップは防水加工や汚れなどがあるため、可燃ごみとされることが通例でした。今大会では実証実験として、大会で使用した紙コップを古紙として回収し、製紙原料としてリサイクルを行う取り組みを滋賀県内で初めて実施し、参加者のリサイクルへの行動意識変容を促進しました。レース会場の紙コップを含むごみ回収および分別については、びわこ成蹊スポーツ大学の学生が担い、本事業でリサイクルされた製紙原料は、ダンボールへと生まれ変わります。地元地域で消費された資源が活用されていることを「見える化」することにより資源循環への意識向上を狙っています。

実施主体・協力会社

Marubeni Paper Recycle
丸紅ペーパーリサイクル株式会社

HEIWADO
株式会社平和堂

びわこ成蹊スポーツ大学
びわこ成蹊スポーツ大学

丸紅フォレストリクス株式会社 / 福山製紙株式会社 / 大津板紙株式会社 / 信和商事株式会社 / 有限会社杉本紙業 / 株式会社トーモク

ペットボトルを「ボトルtoボトル」でリサイクルする「ペットボトル回収機」を設置 電源はクルマから電気を取り出して給電



セブーンイレブン・ジャパンでは、2021年に守山市と包括連携協定を締結し、滋賀県内初の店頭ペットボトル回収機を守山市より稼働をスタートさせ、お客様とともにできる環境へ取り組みを様々な形で推進しています。日本コカ・コーラ株式会社、コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社の協力により、大会にて選手に配布するペットボトルを、選手自らがペットボトル回収機にてペットボトルを回収してもらい、地域社会と一体となった「ボトルtoボトル」によるプラスチックのリサイクルと海洋ごみ対策を促進し、ごみの削減を進めました。また、トヨタモビリティ滋賀株式会社の協力により、トヨタの「PRIUS PHV」を会場にて設置してクルマから電気を給電し、「ペットボトル回収機」の電源として使用しました。一般家庭の約5日分(PRIUS 2.0Lの場合)の電力をクルマから供給可能で、いつも暮らしから、もしもの非常時まで、場所に縛られることなく「電気が動く」ことで、暮らしに安心を届けます。

実施主体・協力会社

セブーンイレブン 株式会社セブーンイレブン・ジャパン

Coca-Cola 日本コカ・コーラ株式会社

Coca-Cola 日本コカ・コーラ株式会社

Toyota Mobility Shiga トヨタモビリティ滋賀株式会社

食品ロスの低減



和洋菓子のたねや・CLUB HARIEグループからは、ゴールした参加者に「バームクーヘンのポストック」と、人気の「どらやき」を提供いただきました。特にポストックは、バームクーヘンを作る工程において商品にできなかった部分を利用し、新たな美味しいお菓子として生まれ変わった、食品ロスを解決する商品です。たねや・CLUB HARIEでは、食品ロス低減の取り組みをはじめ、滋賀・琵琶湖の自然を守り、持続可能にしていける取り組みを展開しています。

実施主体

たねや CLUB HARIE
たねや・CLUB HARIE

電気で抗菌・土に還る次世代繊維を活用した スタッフウェア・大会公式グッズの提供



人の動きを電気エネルギーに変える新素材「ピエクレックス」は、繊維が動くことで微弱な電気を発生させ、抗菌効果を発揮。洗濯を何度行っても効果は持続し、臭いの元となる菌に対しても有効です。植物由来の素材で環境にも優しく、素材は土にかえすことができます。大会開催地である野洲市に事業所のある株式会社ピエクレックスの協力により、ピエクレックス素材を使用したハンドタオルを参加賞として選手の皆様にお届けしました。また、大会主要運営メンバーが着用するスタッフウェアにもピエクレックス素材のウェアを採用。シンプルなデザインで長く着用し、不要になったら回収して分解できる仕組みです。

実施主体

PIECLEX
UTILIZE YOUR ENERGY
株式会社ピエクレックス

※抗菌効果とは、菌の増殖を抑える効果のことです
※使用状況により効果は変わります